

映画『ゴジラ』1954 (東京都)

会誌編集専門委員会

概要

ゴジラと言えば国会議事堂や東京タワーを破壊し、新幹線をひっくり返すイメージがある。しかし、戦後10年に満たない1954年公開の第1作の『ゴジラ』では、東京タワーや新幹線はまだ存在していない。国会議事堂が破壊されたのは、庶民のうっぷん晴らしとも言われている。また『ゴジラ』は娯楽映画と思われているが、どうやら反核・反戦映画のようだ。当時、第五福竜丸の被爆事故があり「ゴジラ=核の落とし子=人間が生み出した恐怖」にみたてて、核の恐ろしさを訴えている。

日本の怪獣映画の元祖で、特撮・パニック映画の傑作として世界でも評価が高く、邦画初の全米公開作品となった。現在までに派生作品を含め30本近くの続編等が製作されている。特撮技術も素晴らしく、円谷英二が「特撮

の神様」と呼ばれるきっかけとなった作品だ。監督は本多猪四郎、宝田明、志村喬、河内桃子、平田明彦等が出演。日本を代表する作曲家伊福部昭による「ドシラ・ドシラ・ドシラソラシド〜」で始まるテーマは、後の作品にも引き継がれた。

あらすじ

水爆実験により海底深く埋められていた怪獣が蘇り、東京湾沖合の島で家屋を破壊し住民を殺傷した。政府から派遣された調査団の一行は、そこで怪獣を目の当たりにする。怪獣は島の言い伝えになぞらえ「ゴジラ」と命名された。ゴジラ討伐を決断した政府は、5万Vの高圧送電線を東京湾沿岸に張り巡らせる等の防衛を施すが、ゴジラの吐く白熱光により溶け落ちる。品川に上陸し、辺りの建物等を破壊した後、海中に戻った。

有効な対策が無い中、ある化学者が人間に対する不信から秘密裏に開発した、あらゆる生物を死滅させる水中酸素破壊剤の存在が明らかになる。彼は水爆同様の大量破壊兵器を生み出した自責の念にかられていたが、焦土と化した東京や被災した人々の様子に心を打たれ、使用を決断する。そして自らゴジラがいる海中に潜水服で潜り、水中酸素破壊剤発生装置を作動させる。目的が達成されたことを見届けた後、彼の頭の中だけに残っていたこの大量破壊兵器の設計図をこの世から葬り去るため、自ら命綱を切った。



写真1 DVD『ゴジラ』のパッケージ



写真2 京浜急行のハツ山橋



写真3 「ゴジラ上陸地点」とあるまちあるきマップ

ゴジラの舞台

① 京浜急行のハツ山橋

ゴジラが最初に破壊した、正式名称「ハツ山跨線線路橋」。品川駅の南約200mにある1933年完成の橋長48mのワーレントラス橋。進行中の品川駅改良計画により、数年後に撤去される予定。橋南東の広場にある『東海道 品川宿 まちあるきマップ』には「ゴジラ上陸地点」との表記がある。

② 国会議事堂

ゴジラは高さ65.45mの中央塔に見向きもせず、北側の参議院棟を壊して進む。1936年に建造された議事堂は、御影石で装われ「白亜の殿堂」と賞賛された。地上3階地下1階、鉄骨鉄筋コンクリート造。

③ 銀座の和光本館の時計塔

時計塔の11時の音にゴジラが怒り破壊。時計塔は建築家渡辺仁の設計で1932年に完成した2代目。ネオ・ルネッサンス様式の建物の屋上にあり、四方の文字盤は東西南北を向いている。屋上までが約30m、その上の時計塔の高さは約9m。

④ 勝鬨橋 (隅田川)

ゴジラが東京湾へと戻る途中に破壊。1940年に完成し、中央が開閉する跳開橋として東洋一の規模を誇っていた勝鬨橋は、航行船の減少や車両交通量の増加などにより、1970年の開閉を最後に開くことは無くなった。橋長246m、橋幅22m、跳開部の両側は下路式タイドアーチ橋。

⑤ 記念碑

ゴジラが初上陸した品川で国鉄(現JR)の操車場を破壊。品川駅1番(山手線内回り)線ホームには、「鉄道発祥の地」「山手線0km」「Since 1885」との表記の外、恐竜のシルエットが描かれたプレートが埋められている。ゴジラをイメージしているのだろうか。一方、日比谷シャンテ前の広場にはゴジラ生誕40周年を記念して造られた高さ2.2m(台座含む)のゴジラ像があった。広場改修に伴い撤去されているが、いずれ戻って来るようだ。幾つかの記念碑的なものが造られたことは、60余年前に破壊された地域の人々も含めて、ゴジラが愛すべきキャラクターとなっている証しなのだろう。

(文 塚本敏行)

<参考資料>

- 1) 『ゴジラ 全映画DVDコレクターズBOX』VOL.1 (通巻1号) 2016年7月 講談社
- 2) 『ゴジラ』1954年公開時パンフレット
- 3) 『国会 衆議院へようこそ』一般用参観者パンフレット (平成29年5月版)
- 4) 『和光と時計塔の歴史ホームページ』(https://www.wako.co.jp/clock_tower/)
- 5) 『東京都建設局ホームページ かちどき橋の資料館』(http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/jigyo/road/kanri/gaiyo/kachidoki/index.html)

<写真提供>

- 写真1、3、5 塚本敏行
写真2 高橋真弓
写真4 山上英之
写真6 安河内孝/土木学会附属土木図書館所蔵
写真7 茂木道夫



写真4 国会議事堂正面

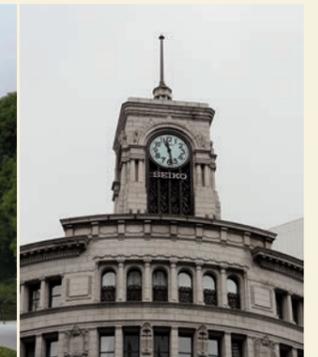


写真5 銀座の和光本館の時計塔



写真6 1970年11月29日の勝鬨橋最後の跳開



写真7 品川駅1番線ホームに埋め込まれたプレート